

防根シートを用いたブドウ‘ピオーネ’の着色促進

埋め込んだ防根シートで囲った枠内に大粒種ブドウ‘ピオーネ’を植栽すると、果皮色の着色促進が図られます。露地栽培でも導入可能な簡易な根域制限技術です。

防根シート埋め込み式根域制限栽培の方法

苗木を表1の土量となるように植穴を掘り、植穴の側面と底面を透水性不織布(ポリプロピレン製、厚さ1mm)で仕切り、樹間7.2m×3.6mで植え付け(写真1)、樹冠拡大とともに



表1 根域制限の概要

土量	植穴(深さ×縦×横)
530 リットル	20×212×125(cm)
800 リットル	20×320×125(cm)
1,200 リットル	20×480×125(cm)
1,800 リットル	20×720×125(cm)
慣行	根域制限なし

写真1 根域制限樹の植え付けの状況

効果の概要

根域制限により、慣行栽培に比べて顕著な果皮の着色向上が認められ(写真2)、特に、土量530リットルでは収穫果実のカラーチャート値9(濃紫黒色)以上が約90%を占めるとともに、最も早くから収穫でき、収穫期が10日程度前進した。

しかし、一粒重、糖度、酸含量については、慣行栽培との差は認められなかった。



写真2 ブドウ‘ピオーネ’の根域制限栽培の着色状況
(写真中の数値は土量 単位:リットル)

活用面・留意点

1. 防根シート埋め込み式根域制限法は低コストで、簡易に根域制限栽培が導入できるので、紫黒色大粒種ブドウを対象に広く導入可能です。
2. 本県においては、紫黒色大粒品種の露地栽培でも盆前出荷が可能となります。
3. 根域制限栽培は夏季だけでなく、春季も水分ストレスを受けるので、簡易なかん水施設が必要ですが、根域面積が限られているので、水量は通常のかん水に比べて節水されます。
4. 根域制限樹は、慣行栽培に比べて樹冠拡大が遅れる傾向にあるので、計画的な密植が必要です。